

柔道競技実施要項

1. 主催 鹿児島工業高等専門学校
九州沖縄地区国立高等専門学校体育連盟
2. 主管 九州沖縄地区国立高等専門学校体育連盟柔道競技専門部
3. 後援 霧島市、霧島市教育委員会
4. 大会期日 令和4年7月2日（土）・・・団体試合
3日（日）・・・個人試合
5. 大会会場 霧島市 国分武道館
6. チーム人員 監督1名、コーチ1名、マネージャー1名、選手7名以内、計10名以内とする。
ただし、個人試合においては、前記以外の選手を出場させることができる。
7. 競技規定
 - (1) 「国際柔道連盟試合審判規定」による。
 - (2) 「優勢勝ち」の判定基準について
 - ア 団体試合の判定基準は、「技有」又は「僅差」以上とする。なお、「僅差」は指導差2とする。
チームの内容が同等の場合は代表選手を任意に選出して代表戦を行う。代表戦で得点差がない場合は、延長戦（ゴールデンスコア）により勝敗を決する。代表戦における判定基準は「技有」又は「僅差」以上とし、その延長戦の判定基準は、個人試合に準ずる。
団体戦の代表戦以外の試合において、「同時一本」の場合は「引分」とし、「両者反則負」の場合は両者負けとする。
 - イ 個人試合の判定基準は、「技有」又は「僅差」以上とする。なお、「僅差」は指導差2とする。
技による評価が同等の場合は、延長戦（ゴールデンスコア）において勝敗を決する。
延長戦による判定基準は「技有」以上の得点、又は「指導」の数に差がついた時点で試合終了とする。
個人戦又は団体戦の代表戦において、「同時一本」もしくは累積による「両者反則負」の場合は、スコアをリセットし、延長戦（ゴールデンスコア）において勝敗を決する。また、延長戦において指導の累積により「両者反則負」となった場合には、スコアをリセットし、再度延長戦（ゴールデンスコア）を行い必ず勝敗を決する。
 - (3) 関節技において、その効果があると認めたととき、審判員の見込みによって「一本」の判定を下すことができる。但し、絞技においては、見込みによる判定を行わない。
 - (4) 試合時間は、団体試合、個人試合とも4分とする。
8. 競技方法
 - (1) 団体試合
 - ア 団体試合の組合せは、監督会議で抽選を行う。
 - イ 参加チームが6校以上の場合、参加チームを3ブロックに分け、予選リーグを行い、各1位の3チームにより決勝リーグを行う。
 - ウ 前々年度の決勝リーグ戦の成績によって、第1位チームをAブロック、第2位チームをBブロック、3位チームをCブロックにシードする。参加チームが9チームに満たない場合、満たないチーム数をAブロック、Bブロック、Cブロックの中で1チームずつ減ずる。
 - エ 決勝は各ブロックの1位によるリーグ戦で行う。（組み合わせは抽選による。）
 - オ 試合は各チーム5名の点取り試合方式で行い、試合ごとのオーダー変更を認める。

カ リーグ戦の順位の設定は次による。

(ア) リーグ戦におけるチーム対チームの勝敗は次による。

- ① 勝ち数の多いチームを勝ちとする。
- ② ①で同等の場合は、「一本」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。
- ③ ②で同等の場合は、「技有」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。
- ④ ③で同数の場合は、「僅差」による勝ち数の多いチームを勝ちとする。
- ⑤ ④で同等の場合は、引き分けとする。

(イ) リーグ戦の順位は、2勝・1勝1分・1勝1敗・2分・1分1敗・2敗の順とする。

(ウ) (イ)で同等の場合は、リーグ戦を通じ勝ち数の多いチームを上位とする。

(エ) (ウ)で勝ち数の同じ場合は、「一本」による勝ち数の多いチームを上位とする。

(オ) (エ)で同等の場合は、「技有」による勝ち数の多いチームを上位とする。

(カ) (オ)で同数の場合は、「僅差」による勝ち数の多いチームを上位とする。

(キ) (カ)で同等の場合は、負け数の少ないチームを上位とする。

(ク) (キ)で同等の場合は、「一本」による負け数の少ないチームを上位とする。

(ケ) (ク)で同等の場合は、「技有」による負け数の少ないチームを上位とする。

(コ) (ケ)で同数の場合は、「僅差」による負け数の少ないチームを上位とする。

(サ) (コ)で同等の場合は、代表戦を行う。

キ 参加チームが5チーム以下の場合、全参加チームの総当たり戦を行い、順位を決める。この場合の順位は、カに準ずる。例えば、参加チームが5チームの場合の組合せは次のようにする。ただし、試合間に10分間の休憩を入れる。

第Ⅰ試合場	第Ⅱ試合場
1－2	3－4
5－1	2－3
4－5	1－3
2－4	3－5
1－4	2－5

(2) 個人試合

ア 【男子】

(ア) 出場選手は、66kg級、73kg級、81kg級、無差別級ともに各校2名以内とする。

(イ) 各級別にトーナメント戦とし、代表者決定戦も行う。

(ウ) 個人試合の組合せは、監督会議で抽選を行う。

(エ) 個人試合は、シード制を設ける。

① シードされるのは、前々年度1位から3位の4人とする。

② シード権があっても、階級を変えるとシード権は消える。

(オ) 計量は、団体戦終了後に会場において厳正に行う。(計量の開始時刻は、監督会議において決定する。)

定められた時間内に計量を受けなかった者及び規定の計量に合格しなかった者は失格とする。

イ 【女子】

(ア) 出場選手は、48kg級、52kg級、57kg級、無差別級ともに各校2名以内とする。

以下(イ)～(オ)については男子に同じ

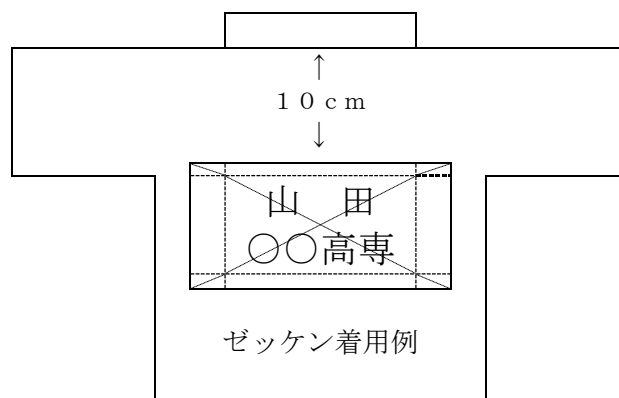
9. 注意事項・その他

(1) 競技が天候不調により中止になった場合の全国大会出場者の選出は、団体戦、個人戦、それぞれ出場する意思をメール等で確認し、その中から担当校が抽選により決める。抽選の様子はテレビ会議で放映する。

(2) 団体試合におけるオーダー用紙の提出は、各試合とも開始15分前とする。オーダーは登録選手7名の枠内において各試合ごとに組替えてよい。ただし、定められた時刻までにオーダーの提出がなかった場合は、前試合と同じオーダーでもって試合を行わなければならない。また、

連続して試合に出場する場合に限り、前試合終了後直ちに提出すればよいことにする。

- (3) エントリー変更は、不慮の事故、負傷のために出場できなくなった場合に、監督会議に申し出て承認を得るものとする。また、入学試験、就職試験、インターンシップ等の学生の不可抗力により出場できなくなった場合については、監督会議開催日の1週間前までに当番校に申し出を行うとともに、監督会議にて承認を得るものとする。なお、エントリーの変更にあたっては、医師又は学校長の証明を添付のうえ申し出を行うものとし、監督会議にて審議を行う。
- (4) 柔道衣の検査を試合前に行う。違反者は着替えることとする。
- (5) 選手は、上衣の左胸部にハガキ大(10×15cm)の校名、背部に全日本柔道連盟規定のゼッケン(縦25cm、横32cmの白布地に姓・校名を横書きしたもの)をつける。



- (6) 全日本柔道連盟登録記録コピーを持参する。
- (7) 試合中の負傷については、大会本部で応急処置を施すが、その後の処置は当該校で行うこと。但し、脳振盪・皮膚真菌症(トングランズ)に関しては次のとおりとする。

<脳振盪における扱い>

- ア 大会1ヶ月前に脳振盪を受傷した者は脳神経外科の診察を受け出場の許可を得ること。
- イ 大会中、脳振盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。(なお、至急専門医(脳神経外科)の精査を受けること)
- ウ 練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。
- エ 当該選手の指導者は、大会事務局(公財)全柔連に対し、書面により事故報告書を提出すること。

<皮膚真菌症(トングランズ)における扱い>

皮膚真菌症(トングランズ感染症)については、発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関に於いて、的確な治療を行うこと。もし選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場ができない場合もある。疑わしい場合には大会長に申告の上、指示を仰ぐこととする。

- (8) 大会参加に際して提供される個人情報、本大会活動に利用するものとし、これ以外の目的には利用しない。
- (9) 別紙「第59回(令和4年度)九州沖縄地区高専体育大会柔道競技における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン」を遵守すること。
また、大会会場の新型コロナウイルス感染拡大防止対策方針に従い、感染拡大防止に最善を尽くすこと。

第 59 回（令和 4 年度）九州沖縄地区高専体育大会柔道競技における
新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン

1. はじめに

本ガイドラインは、鹿児島県高等学校体育連盟柔道専門部が策定したガイドラインに基づき、新型コロナウイルス感染症への対応として作成したものです。本ガイドラインの内容は、今後の国や全柔連、県柔連などからの指針や通知、各地域の感染状況、大会運営上の都合により見直すことがあり得ることにご留意ください。

2. 運営側の感染予防対策

- ① 大会中は選手数、審判、役員、係員、観客等の密集を避け、必要に応じて注意喚起を行う。会場の消毒、清掃などについては主催者が事前に方針を決定する。
- ② 選手・役員・係員・審判員などすべての参加予定者に事前に健康記録表を渡し、当日入場時に過去 2 週間前からの健康記録をチェックする。当日参加の観客・応援者などには当日配布しチェックした後に入場を許可する。体温計を準備する。チェックした健康記録表は主催者が責任を持って個人情報漏洩しないように注意し、厳重に保管する。また、大会翌日から 2 週間健康記録をチェックする。保管時期は概ね 1 ヶ月とし、保管時期終了後は確実に破棄する。
- ③ 健康記録表の提出がない者の入場を許可しない。参加者の健康記録表に異常（発熱や有症状）がある場合や以下の場合には参加者の入場を断る。
 - ア 体調がよくない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
 - イ 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - ウ 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- ④ マスクの着用、手洗い、共同施設の使用など感染予防措置や注意事項について事前に決定し、参加者にも感染予防措置を周知する。

3. 参加学生の感染予防対策

- ① 選手は試合場に到着時に受付で 2 週間前からの健康記録表を大会委員長に提出する。
- ② 大会当日、会場でも体温チェックを行う。
- ③ 健康記録表を持参しない選手、健康記録表で発熱（37 度以上）や症状を有する選手は試合に参加させない。他の参加者と同じ扱いで参加の有無を判断する。
- ④ アップ、試合時以外はマスクを着用する。
- ⑤ こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を心がける。

4. 監督・コーチ・大会役員の感染予防対策

- ① 選手と同様に健康記録表を提出する。
- ② 大会当日、会場でも体温チェックを行う。
- ③ 大会中は、マスクを着用する。

5. 審判員及び係員の感染予防対策

- ① 基本的に審判員のマスク着用は不必要であるが、マスクは持参していただく。
- ② 試合場に上がらない審判委員、副審、係員はマスクを着用していただく。
- ③ 試審判同士や選手とは、十分な距離を空けるが、技の判定（特に締技）の判断には近接での判断が必要な場合もあるので臨機応変に対応する。

- ④ 監督や選手、コーチが試合場で大声を出し応援や指示をする場合には、厳しくコントロールする。大会主催者は会場放送等で選手間の距離も近接している場合には注意をする。
- ⑤ 大会主催者は会場放送等で試合場周囲の観客席からの大声の応援や身体間距離を取らない応援を注意する。
- ⑥ 選手・監督・コーチ・役員や観客・応援者などすべての参加者に、感染予防措置を守らない場合には途中退場があることを、主催者から通達しておく。
- ⑦ こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施する。アルコール消毒は主催者が準備しておく。
- ⑧ 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告する。
- ⑨ 出血や汚物などで汚れた会場は、審判員の指示で主催者・係員が必要に応じて清掃・消毒を行う。
- ⑩ 飲食は指定場所以外では行わず、周囲の人となるべく距離をとって対面を避け、会話も控えめにする。

6. 観客の感染予防対策

無観客とするか、数を制限して観客を許可するかは、主催者が十分に検討して判断する。観客を入れる場合もこれまで述べた感染予防措置は順守させる。

- ① 会場は観客席の広さや配置から最大許可人数を決め、その人数制限を守る方法を事前に検討する。
- ② 入場時に健康記録表をチェックし回収する。個人情報取得の必要性（クラスター発生時の追跡と連絡）と保管時期、取り扱いについて説明し同意を得る。
- ③ 選手や役員、審判員と同じ基準で有熱者や有症状者は入場を断る。
- ④ 客席の観客間は1～2m 距離を取る。
- ⑤ マスクを着用する。入口には消毒設備を設置しておく。
- ⑥ 密集する応援や大声での応援は禁じる。注意を守らない観客には退場を宣告する。
- ⑦ 共用施設（トイレなど）の使用については注意点を掲示する。

7. 大会参加申し込みについて

- ① 顧問は必ず、選手及び保護者から大会参加の同意書を取り、校長責任のもと申し込みを行う。同意書は各学校で保管する。
- ② 大会参加を強要することがないよう配慮する。